

1 月号
VOL. 476

土會奈良



SHIKAI

2014 NARA

表紙のことは

奈良の近代化遺産 6 ·
生駒山上遊園地 飛行塔



生駒の山上に遊園地が開園したのは昭和4年の事。日本初のケーブルカーが宝山寺から延伸して山頂まで開通すると同時に開園とともに建造され、遊園地のシンボリック存在となった遊具が飛行塔である。

設計者は土井万蔵。日本における大型遊戯機械の父と呼ばれた人で、彼が創案したのが「土井式飛行塔」であった。この土井式飛行塔は大正9年に千里山遊園地に納品されたものが1号機であり、生駒山のそれは数えて16基目にあたる。ここで万蔵は新たな試みに挑戦している。鉄骨塔屋に展望台の用途を与えたのだ。展望台に上るためのエレベーターを設置して、そのエレベーター自体をゴンドラ（飛行機）が昇降するためのオモリにしてしまった。ゴンドラが上昇するとエレベーターは下降し、昇降を繰り返す事でゴンドラに乗車する客と展望台に上る客が入れ替わる仕組みで、一度の行程で二度オイシイ！ということになっている。（注：現在は展望台には登れなくなっています。）

戦前の鋼製遊具の多くは戦時中に供出され、ほとんど現存しておらず、この飛行塔は現存する日本最古の大型遊戯施設になり、80年を超えて今なお現役で活躍している。戦中戦後の激動を見届けてきた近代化遺産だ。

奇跡的に供出を免れたのには或る理由があった。戦時中の生駒山頂は海軍航空隊が配備され、山頂にあった施設の多くは軍用施設に用途を変え活用された。360度のパノラマ展望が可能な飛行塔は防空監視所として転用されていたのだ。

さてさて、いくら展望台と飛行塔を兼用すると言っても、他の土井式飛行塔と比べてやたらと鉄骨量が多いこの飛行塔。もしやして万蔵は忍び寄る戦争の影を感じ取り、軍用施設への転用も意識して供出阻止を目論んで、このような頑強な設計にしたのだろうか？

そんな妄想をしてみるのも楽しい。（記・中尾克治）

写真提供：公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 奈良地域会

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治		
職務代理			
副委員長	田上 圭吾	折目 貴司	
委員	乾井 哲	岩城由里子	
	鶴山 治	小松原寛俊	
	崎山 泰正	辻 元二	
	福西 保夫	福本 保治	
	宮浦 重彦	森馬 康之	

Contents

001

「新年のご挨拶」

004

年賀広告
「参加会」「役員有志」

006

女性委員会
「ユニバーサルデザイン講演会」

007

郡山支部
「第39回親子まつり」レポート

008

「第33回近畿建築祭大阪大会レポート」

010

「夢を容れる器」（渡辺菊眞氏）

012

「第56回建築士会全国大会「しまね大会」」

013

「平成25年度 連合会 会長表彰者」
（全国大会しまね大会にて）
「中南和六支部 親睦ゴルフ大会」レポート

014

青年委員会
第56回建築士会全国大会「しまね大会」

015

青年委員会
「事業の案内」
「建築模型講習会【初級編】 レポート」
「大人の工場見学会 レポート」

018

橿原支部
「鉄鋼部材の工場見学 レポート」

019

高田支部
「グランフロント大阪見学レポート」

020

奈良支部
「韓国視察」レポート

021

お知らせ
「一級・二級・木造定期講習について」 他



新年のご挨拶



年 頭 所 感

(一社)奈良県建築士会

会 長 福 本 良 平

あけましておめでとうございます。昨年は一般社団法人として新たにスタートの中、様々な士会活動に御協力いただきありがとうございました。

今、人口減少、高齢化が急激に進んでいます。奈良県も30年後には現在の140万人から110万人（内、65歳以上41万人）へと減少するという予測がでています。このような状況の中、今後我々はどのような社会づくり、街づくりをしていけばよいのか。そこで、超高齢化社会の中で環境やエネルギーという今日的課題にも配慮したプラチナ構想というものが提唱されています。このプラチナ社会の基本的ビジョンは、①快適な自然環境の再構築された社会②資源、エネルギーの心配のない社会③老若男女が全員参加できる社会④雇用の安定した社会⑤生涯を通して成長できる社会ということです。我々が現在あるべき都市構想としている

コンパクトシティが、将来多方面にわたる制度改革によって生まれるより成熟した社会の姿がこのプラチナ社会ではないかと思えます。一方その地域が存在することの本当の価値を見出し、守り、創りあげる行動が街づくりであり、奈良の地においてそれにたずさわる我々コミュニティーアーキテクトとしては、日本の都市の原点であるこの奈良をさらに深く理解することが大切だと思います。

ところで、2020年に東京オリンピック開催が決定しました。今そこで新国立競技場計画が話題になりました。東京という多様な文化が集積する大都市の中の建物とはいえ、地域性としてその巨大さ（総面積29万㎡）が都市景観、安全上、そして維持管理費用に関して懸念があるということで、連合会も他団体と一緒に見直しの要請書を国等に出しました。

今年は景観調和デザイン賞の実施年にあたります。デザイン賞部会では、今あらためて今までの内容を検討し、より意義のあるものにするための努力をいただいています。奈良という地域にふさわしい作品が出品されることを願っています。

またヘリテージマネージャーの育成等、他団体とのコラボレーションの下将来地域貢献するであろう事業の継続により、魅力ある街づくりが進められることを期待しています。会員の皆様の御支援、御協力よろしくお願い致します。



平成26年

新年ごあいさつ

奈良県知事

荒 井 正 吾

奈良県建築士会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

平成二十六年の年頭にあたり、奈良県建築士会会員の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、奈良の伝統文化が培ってきた叡智と活力である「やまとごから」を県勢発展の原動力として活用し、本県の抱える課題の解決に向け、全力で取り組み、県民の皆さまのご協力、ご支援のおかげで、企業誘致、地域医療、消防広域化などの分野で成果が表れてまいりました。

本年も「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ことを県政の目指すべき目標とし、その実現のため精一杯取り組んでいきたいと思えます。

まず、地域の産業・雇用の分野では、企業が立地しやすくなるよう、企業支援や立地環境整備に積極的に取り組む

とともに、新しい産業の創出のための研究開発を進め、新たな雇用を確保します。

次に、医療の充実については、県立医科大学附属病院の充実整備や、南和地域での新救急病院の整備など、県民の皆さまに安心していただける地域医療体制づくりを進めます。

また、「奈良県地域防災計画」の見直しを本年三月に完了し、これに基づいて、災害に強い地域づくりに努めてまいります。

紀伊半島大水害からの復旧については、概ね順調に進んでいますが、今なお仮設住宅などに住まれる方々の一日も早い帰宅が実現するよう、最優先で取り組みます。

これらの課題については、今後も知恵と工夫を凝らし、着実・丁寧に進めていくことが大切であると考えています。一つ一つの実績を積み重ねれば、奈良はもっと良くなっていくと思えます。

これからも、奈良を良くしたいという願いを強く持ちながら、県民の皆さまのご意見やご提案に十分に耳を傾け、皆さまと力を合わせて奈良のより良き未来を築いていきたいと考えています。

皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年ごあいさつ

奈良市長

仲川 げん

あけましておめでとうございます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年7月の市長選におきまして、2期目の市政のかじ取りを担わせていただくことになり、改めて責任の重さを痛感し、決意を新たにしているところでございます。

さて、現在、本市におきましては、新しい国土軸となるリニア中央新幹線中間駅の誘致活動を展開するなど、定住人口の確保と交流人口の拡大に向けた市政運営を進めております。

昨年11月25日に、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の一部が改正施行されました。南海トラフの海溝型巨大地震等、大規模な地震の発生に備えて、建築物の地震に対する安全性の向上を一層促進するためのものです。

奈良市に住んでおられる市民の皆さん、観光や仕事で訪れる人たちが不安なく、安全で安心できるまちであるためにも、建物の耐震性を確保することが必要です。

大規模な病院、店舗、旅館など、不特定多数の人が利用される建物に対し、建築物所有者による耐震診断の実施が義務付けされました。耐震診断の実施に向けては、本市も力強い支援をしていきますので、建築士の皆様方にも、建築物の耐震診断や耐震改修設計において、お持ちの専門分野の知識や技術を存分に発揮していただき、ご尽力いただけるようお願いいたします。

本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新しい年が幸多い年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



未来へつなぐ

橿原市長

森下 豊

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人奈良県建築士会会員の皆さまにおかれましては、平素より橿原市政にご理解、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。また、近畿建築祭の折には、多くの皆さまに飛鳥、藤原京を訪れていただきありがとうございました。

橿原市は、特別史跡である藤原京、伝統的建造物群保存地区である今井町、道路百選にも選ばれた参道を有する橿原神宮、名勝指定、世界遺産暫定登録となった大和三山等、歴史・自然・豊かな文化と、交通の要衝としての地の利を活かして、中南和地域の拠点都市として発展をとげてきました。しかしながら、中南和地域には、世界遺産に匹敵するような遺跡や神社仏閣、古墳、町並みが数多く存在し、こういった歴史遺産・観光資源が、自治体の枠を越えて、互いに手を結び、一体的に連携を図ることで、ともに地域の活性化につながると考えています。

昨年、その広域観光のツールとして取り組んだひとつに、ご当地ナンバー「飛鳥」の導入があります。多くの皆さまから温かいご支援やご賛同をいただきましたが、導入条件である台数が10万台に至らず、残念な結果となりました。しかしこの活動から、「飛鳥」という地域は、国も認めている大きなブランド力があり、中南和の地域全体が、より強く連携すべきだという思いを、改めて感じました。2020年には、オリンピックが東京で開催されます。その波及する経済効果等を、充分に取り込める地域となるよう、これからは、橿原市が中心となった「飛鳥」地域で、近隣市町村との連携や交流を重ね、広域観光や地域振興に積極的な事業展開をすすめてまいります。

歴史遺産や観光資源、美しい景観、防災や減災、環境やエネルギー等、まちづくりに対するニーズは年々複雑多様化しております。また、戦後の復興期に制定された建築基準法及び建築士法は、社会情勢の推移に応じて追加、改廃等され、省エネ法等の新たな関連法も制定され、複雑で分かりにくいものとされています。そういった中、建築の専門家としての高度な知識や技術をもった皆さま方の役割は、非常に大きくなってまいります。どうぞこれからもご活躍いただき、地域社会の健全な発展に、なお一層のお力添えを下さいますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

年頭挨拶

生駒市長

山下 真

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本市行政にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、「関西一魅力的な住宅都市」を目指して、医療、福祉、子育て支援、教育、環境など様々な分野で新規事業を立ち上げてまいりました。その結果、東洋経済新報社が実施している「住みよさランキング」で関西5位、「安心・安全な街ランキング」でも都市型自治体の中で全国トップという評価をいただきました。また、市民の皆様を対象に実施しました「市民満足度調査」におきましても、前回調査と比べ、定住意向及び満足傾向が10%も増加いたしました。

このように、本市が高く評価されるとともに、市民の皆様の満足度が増加しているということは、私たち行政職員

にとって大きな誇りであります。

また、これまで「最少の経費で最大の効果」が発揮できるよう、様々な行財政改革を行ってまいりました。その結果、平成24年度決算におきましては、地方公共団体の財政運営の弾力性を示す経常収支比率が平成15年度以来9年ぶりに90パーセントを下回り、89.2パーセントまで改善することができました。

しかしながら、高齢者の増加、長期に及び景気低迷による生活困窮者の増加等により、扶助費や社会保障費は増加の一途をたどっており、今後におきましても、本市の財政は楽観できない状況にあります。

このような中、本年2月に「生駒ふるさとミュージアム」が開館し、4月には生駒駅北側に再開発ビル「ベルテラスいこま」がグランドオープンするなど、明るい話題が続く予定です。

彫刻家であり、詩人でもあった高村光太郎が詩「道程」の中で「僕の前に道はない僕の後ろに道は出来る」と詠んだように、本年も、職員とともに「自分たちが道を切り開いて行くのだ！」という気概を持って「関西一魅力的な住宅都市」を実現すべく全力投球してまいります。引き続き皆様方のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
まちづくり推進局建築課長

西山 恵三

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、幸多き初春を迎えられたことと存じます。

貴会におかれましては、昨年4月に一般社団法人として新たな第一歩を歩まれることとなりましたこと、お祝い申し上げます。

昨年は建築物の地震に対する安全性の向上を一層促進するため、建築物の耐震改修の促進に関する法律（耐震改修促進法）が11月に改正施行され、病院、店舗、旅館等の不特定多数の者が利用する大規模な建築物等について耐震診断の義務化や全ての建築物に対して耐震化の努力義務が課される等の措置が講じられました。さらに、建築物における天井脱落対策として、本年4月には建築基準法施行令が改正施行されることとなります。

南海トラフの巨大地震が最大クラスの規模で発生した場合、東日本大震災を超える甚大な人的・物的被害が発生することがほぼ確実であるとの被害想定が発表されています。さらに奈良県内で30年以内に震度6弱以上の強い揺れが起こる可能性は低いとの予測もされています。本県では、震災に備えたハード・ソフト両面の対策により、被害を最小限に抑えることを目標に住宅・建築物の耐震化に取り組んでいるところです。

また、奈良県では不特定多数の方が利用する建築物のより一層の安全性の確保等を目的に建築基準法に規定されている定期報告の対象を見直すため、建築基準法施行細則の改正作業を進めているところです。貴会の皆様におかれましては施行細則改正の円滑な施行に向けてご協力いただきますようお願いいたします。

また、貴会におかれましては、「なら安全安心住まい・まちづくり協議会」の活動をはじめ、安全安心な建築物、まちづくりへのご協力をいただいているところです。県民の安全で安心な生活を支える社会的使命を果たすため、貴会の皆様と共に努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

<p>(株) 淺沼組 (奈良営業所) 奈良市油阪町14 住友生命奈良ビル ☎0742-26-5225 大西宏次</p>	<p>大倭殖産(株) 奈良市藤ノ木台1-2-15 ☎0742-43-9191 矢追盛賢</p>	<p>(株) 奥村組 (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 朝日務</p>	<p>(株) 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田芳信</p>
<p>鹿島建設(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-23-4564 岡野隆</p>	<p>(株) 鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 柏原幸嗣</p>	<p>(株) 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山雅由</p>	<p>清水建設(株) (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 前田秀樹</p>
<p>大日本土木(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 高田正晃</p>	<p>(株) 中和コンストラクション 桜井市桜井281-22 ☎0744-42-9313 大浦基嗣</p>	<p>(株) 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾隆成</p>	<p>中村建設(株) 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村光良</p>
<p>(株) 平成建設 橿原市曾我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎雅之</p>	<p>(株) 槇峯建設 高市郡高取町丹生谷1061 ☎0745-67-0084 槇峯豊美</p>	<p>松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 松塚幾善</p>	<p>村本建設(株) 北葛城郡広陵町平尾11-1 ☎0745-55-1151 市岡武</p>
<p>(株) 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下秀城</p>	<p>(株) 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上雄平</p>		

明けましておめでとらござります

役員有志

<p>(株) 北 和 設 計 奈良市法華寺町126-1 岩本西ビル 0742-30-4621 泉 谷 良 宏</p>	<p>Y A S プランニングオフィス 奈良市柏木町422-1 柏木ビル3階 0742-35-5591 稲 原 泰 裕</p>	<p>井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 井 上 慶 治</p>
<p>岡田一級建築士事務所 橿原市西池尻町194-1 メゾンサクセスII-103 0744-28-5580 岡 田 則 夫</p>	<p>(株)城田建築設計事務所 奈良市佐紀町1番地 0742-33-5585 城 田 全 康</p>	<p>(株)竹村建築設計事務所 奈良市三条松町10-12-101 0742-30-3311 竹 村 繁 喜</p>
<p>(株) 中 尾 組 桜井市桜井553-1 0744-42-3567 中 尾 七 隆</p>	<p>(株)伸構造事務所 香芝市瓦口2166 フロンティアビル 0745-71-2200 中 本 明</p>	<p>(株)榊谷設計 奈良市西ノ京町101-1 0742-34-1461 中 元 綱 一</p>
<p>(株)榊谷設計 奈良市西ノ京町101-1 0742-34-1461 中 上 博 功</p>	<p>設計室ウッディ・ハウス 五條市西阿田町53 0747-25-3713 東 康 朝</p>	<p>(株)福本設計 奈良市大宮町6-4-21 0742-34-2800 福 本 良 平</p>
<p>測 上 設 計 奈良市秋篠町765 0742-47-4100 測 上 徳 光</p>	<p>松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松 塚 幾 善</p>	<p>(株)山本工務店 桜井市芝1362番地 0744-42-5441 山 本 吉 治</p>

(50音順)



女性委員会 ユニバーサルデザイン講演会 ～パーキング・パーミットの制度～

平成25年11月7日(木)

講演をしてくださった八木三郎先生は、ご存知の方もおられると思いますが、自身が車椅子使用者で、天理大学において教鞭をとり、行政の障害者福祉に関するアドバイザーとしてご活躍の人物です。手だけで運転できる愛車で士会会館にお越しになり、上半身の力だけで、車椅子の上げ下ろしから、乗り移りなど、さっさと一人で済まされる様子を拝見すると、どんなバリアも乗り越えていけそうに思えてしまいました。

ところが出先では、いつも駐車スペース確保に苦勞されるそうです。車椅子使用者専用スペースが、出入口に近いところに設けてあることは有難いのですが、最も必要なことは、その中にあります。移乗するためには、車のドアを直角まで開き、車椅子を座席に横づけしなければなりません。この直角というのがミソで、車椅子が通るだけの巾ではとても足りないのです。専用スペースが詰まっている時は、2台開いている所があればそこに停めて降りることができるのですが、用事を終えて車に帰ってみると、開いていた所に車が停まっていることがあり、その時には誰か近くにいて頼んで、自分の車をドアが全開にできるところまで前に動かしてもらおうこともしばしばだそうです。

講演の中で紹介されたスライドでは、車椅子使用者用の駐車スペースであることを明示する方法や、健常者が停めないように注意する文言、停められる車を選別する手段も施設によって様々でした。どれが良いかと問われると、それぞれに問題点があり、ベストの答えは得られていません。



日本では、パーキング・パーミットの制度は、2006年7

月に佐賀県で初めて導入され、現在は、30府県2市が行っていますが、奈良県はまだ施行されていません。県内の大型ショッピングセンターなどでは、独自にパスを発行し、専用駐車場に入るのにそのパスの提示が必要といった方法をとっている所があるようですが、逆にパスがあれば自由にゲートを通過できるので、どう見ても身体に問題がないように見える方が、平気で停めているのを見ることがあります。それが親子連れだったりすると、本当に悲しくなります。要するに、手段や方法のみ検討していても片手落ちで、それを利用する人間のモラルの問題が大事だということでしょう。講演中に見せていただいたインターネットの書き込みにも、障害者に対する驚くような暴言が多数ありました。それが大多数の意見とは思えませんが、残念ではありません。

先の東京オリンピックの時、海外からたくさんの身体障害者が訪れ、遅れていた日本のバリアフリーが飛躍的に改善されたそうです。現在も、法律によって高齢者、身体障害者が利用しやすい施設作りが進められています。そのせいか、車椅子使用者の姿が、街中であたりまえに見られるようになってきました。しかし、法律に則っているだけで、本当に使う側の立場に立てていない施設が多いのも現実です。今回のように自らがその立場に立っておられる方の意見をお聞きすると、より一層そのことが明らかになります。

2020年に東京オリンピックが開催されることが決定したことから、益々ユニバーサルデザインの考え方に沿った法律が整備されていくことと思われます。私達はそれを守ることは言うまでもなく、本当に求められる物を作る立場にあり、そうすることに責任があります。物心ともに貢献できるよう、今後ともこのような機会を作り、勉強を続けていきたいと思いました。

(記・桜井支部 山本規子)



郡山支部

「第39回親子まつり」レポート

「町家」をテーマに、大和郡山市「第39回親子まつり」へ今年も出展！

本年も11月3日文化の日、大和郡山市「親子まつり」が開催されました。郡山支部は毎年参加し、子どもたちやその父兄の方とふれあいながら活動内容を市民の皆さまにアピールしています。併せて住宅相談会も開催しています。



本年のテーマは昨年に引き続き「町家」。出し物としては、「町家のクイズと塗り絵」をメインにしなが、新会員である栢谷さん提案の「笛作り」、「郡山のどの建物が好きかアンケート」、「町家調査のパネル」となりました。

少し振り返ってみますと、2011年度は公園用地をモデルに「庭の模型作り」、2012年度は「町家の模型作り」を実施したことが思い出されます。



「町家」のテーマは、2010年から「城下町大和郡山建物探訪」と題して、徳本副支部長を中心に郡山支部有志で箱本十三町の悉皆調査を続けていることが背景にあります。

HANARART2013では、城下町郡山の玉手箱プロジェクトとして調査報告展示を開催するまでにこぎつけました。一般の方に「町家」のことを知って頂けたらという願いを込めて昨年より「親子まつり」のテーマとしています。



「町家のクイズと塗り絵」は副支部長の和田さんが作成。町家で特徴的な造りである「虫籠窓」「ぼったり床机」「鍾馗さん」などを分かり易くクイズ形式で説明し、色鉛筆で塗り絵をして楽しんでもらいました。「町家調査のパネル」もクイズの参考にもなるように展示しました。「郡山のどの建物が好きかアンケート」も昼時に小雨が降るまで実施し、子どもたちは日頃からよく見ている建物に親しみをもって傾向をつかむ事ができました。



そして、今回子どもたちの心を驚かみにしたのは「笛作り」。お昼過ぎから「笛作り」を目当てにしたお客様が増えてきて、用意したセットが午後2時過ぎには全て無くなってしまいました。やはり鳴り物は強し。



以上、様々な新しいことにチャレンジした親子まつりとなったわけですが、来年はどうなることやら、今から楽しみにしております。

(記・郡山支部 折目貴司)



第33回近畿建築祭大阪大会レポート

会場は関西大学天六学舎。オープニングに「天神天満花娘：菅原道真公の愛した梅の花の化身」による、華やかな口上により式典が始まりました。

開会宣言は大阪府建築士会副会長 西邦広氏でした。

次に開催地会長・大阪府建築士会会長 岡本森廣氏の挨拶。近畿建築祭は「近畿は一つ」の合い言葉のもと①各府県を巡り、担当府県が世話をする。②近畿圏の家族をふくめた会員交流の場・コミュニケーションツールである。③各都道府県の伝統文化、風土・習慣・歴史資産・観光地を巡り知見を得る等、人的ネットワークを形成し、見えない蓄積された財産となっている事や、現在の社会・建築士のあり方を述べられました。また、今回の祭りのテーマは「日本一長い天神橋」大阪の伝統・歴史観溢れるダイナミックな庶民文化の多様性や包含的親和性を肌で味わって頂く企画で、建築士・会の基本的バックボーンとなる生活の場・地域で行う祭りにしたい、等々のご挨拶でした。

次に協議会会長・京都府建築士会会長 衛藤照夫氏の挨拶。今年行われた全国大会・出雲の島根「神集う国しまねすべてを引き寄せ円結ぶ」とのメッセージのもと「ものづくり」の原点を見つめるとの理念で開催された事を述べました。さらに近畿建築祭との関連を考え、この祭りは近畿の建築士やそのご家族をお迎えし、全国大会の各ブロック版とも言えます。岡本会長の信念である「建築士・会の社会貢献は人と人の関係性のデザインにある」の言葉が実感できる建築祭である事を祈願したいと結んでおられました。

次に来賓として列席されている各府県建築士会会長様のご紹介がありました。

最後に次回開催の兵庫県建築士会への大会旗の引き継ぎが行われ、続いて次期開催地・兵庫建築士会会長 安田丑作氏のおことばを頂き厳粛の中にも爽やかに式典は終了しました。



記念講演は天神橋筋商店連合会会長 土居年樹氏、テーマ

「町が危ない、家庭が危ない、店が危ない」－日本の街づくり、街生かしは誰がする－

大阪締め「式前に花娘嬢達の手拍子・打ちましょチョンチョン」のお話から始まり、天神さんのルーツ・街づくりは、北野

天神（京都）→天神（大阪）→太宰府天満宮の順に菅原の天神さんは祭られた。天神橋筋商店街は1500年前に出来た商店街で、天神さんの参詣の帰りに井戸端会議様から物々交換に進み自然発生的に市場となった。漁業・農業・林業が日本商人の原点である。

それから現代の話に飛び、戦後社会構想の変化により、街を駆逐したのは、流通業界→地域社会が消える。政治は自分に偏り、企業は利益のみを求めこれが、「街商人」の消える原因となる。40年前から消えかかった商店街の再生、氏が「日本一長い商店街」（総延長2.6km）と名付け、このキャッチコピーのもと、天神橋筋連合会を立ち上げた事。

街活かしのキーワード「文化・歴史の保持」、ベッタウンは寝るだけの街。天神橋筋商店街は大阪城近辺を1丁目としてはじまり7丁目まで。再開発に必要と、アーケードの設置を画策するが、不動産屋のクレームやアーケードに鳥居を装飾、丁目毎に街灯の装飾も変える、空き店舗は借り受け「文化ホール」にと、いろいろな苦難の物語。

天満天神繁昌亭－執念と情熱の集大成。これからの大阪の活性化は観光ですと。最後は天神橋筋商店街のライドショーで観賞と盛りだくさん、時間も10分オーバーしての熱演でした。

（ここでエスカーション①②コース参加者は移動）

講演会は関西大学准教授 橋寺知子氏、テーマ「関西大学天六学舎の建築について」スライドを交えながら講演して頂きました。

（ここでエスカーション③④コース参加者は移動）

閉会式は各エスカーション①②③④終了後、全て大阪天満宮境内に集合し「満歩状」授与式後、大阪建築士会会長の閉会宣言・最後に天神橋筋商店連合会会長 土居年樹氏の大阪締めめでたく閉会しました。



【エキスカージン概要】

①天満天神亭&街歩き 11:30~17:00

参加者数：66名（奈良0名）
上方落語唯一の定席寄席「繁昌亭」で大阪を楽しむ！

②八軒家浜から電気船ツアー&街歩き 11:30~17:00

参加者数：32名（奈良9名）
案内 伴 一郎氏（伴ピーアール株式会社）
世界初のリチウムイオン電気船で大阪を眺める！

③ガイドと共に歩く街歩き 13:30~17:00

参加者数：53名（奈良2名）
知恵とバイタリティも日本一！
ガイドと行く天神橋筋商店街物語
ガイド 植田聖子氏

④住まいのミュージアム&街歩き 13:10~17:00

参加者数：29名（奈良1名）
講演 明珍健二花園大学文学部教授
（住まいのミュージアム学芸員）
テーマ 大阪の町の成り立ち
平成をにぎわう天神橋商店街から、江戸の町並み、昭和の暮らしへタイムスリップ!!

⑤スタンプラリー!! 12:30~17:00

参加者数：34名（奈良9名）
大阪の肝!! こってこてスタンプラリー



(記・桜井支部 松尾憲治)

【考察】—近畿建築祭を学び自分たちの商店街にも活かそう—

●学習させていただいたこと（土居会長のお言葉より）

- まちの原点=分かち合うしくみ(漁業⇄農業⇄林業)
- 社会=皆が仲よく、皆が明るく暮らせること
=縦型ではなく横型が大切
- 商の原点=儲(もうける)=信+者=絆をつくること
- 10数年かかって、馬鹿者と言われるようになった
- 7人の侍(課題解決をする支援者)がいたから出来た
- 知恵を出す人(NPO)⇒実践する人⇒伝える人が必要
- 商店街で文化をする(絵画展、落語会、ものづくり文化)
- 住む文化=人が主役⇒子どもが増え、天満は住みやすい



●自己チェック（桜井市本町通り商店街の可能性）

順調である◎、もう少し頑張る必要あり○、まだまだ頑張らないと△、出来ていない×の4段階で自己評価

- ①横型の展開が出来ているのか? ⇒ ○
イベント（七夕まつり～HANARART）を通じ、産官学民連携⇒新たに人材発掘⇒住民参加が生まれている
- ②ほんまに儲けようとしているのか? ⇒ △
産業と観光をつなげる商品開発（ツアー・人材育成）を始める次世代が現れ始めているが、出る杭を打つ人がいる。
- ③馬鹿者・7人の侍はいるのか? ⇒ ○
青年時代に「万葉まつり」でできた仲間が卒業してもネットワークを構築し、産官学民で連携できている
- ④商店街に文化的要素はあるのか? ⇒ ◎
まさしくHANARARTのこと。神社・お寺さんも積極的に活動に関与。
- ⑤子どもたちが将来も住むまちなのか? ⇒ △
教育環境（木質校舎、図書館、鎮守の森）が整い、お母さん方のコミュニケーションもできているので、何とか自然素材の豊富な町家・町並み・民家の中でのびのびと育てほしい。



●アクション（取り組み始めたこと）

- まちづくり商店街事業【経済産業省】
アーケードを撤去し、外灯+防犯カメラ+コミュニティ施設改修中、今後仕舞屋（しもたや）計画実現へ（畿央大学提案済み）
- エリアマネジメント事業【県】⇒県・市・地権者・大学・協議会が共に方向性を探り、まちづくり会社設立準備へ
- エリアマネジメント中間支援事業【県】⇒まちづくり団体が明日香と連携し、まちづくり拠点整備とファンドの運用検討を始める
- 記紀万葉プロジェクト事業【市・県・文化庁】
地域資源（歴史・文化・自然）を活かした地域の活性化
ガイドカのアップ、ルートツアーづくりなど

今必要な人材は、タウンマネージャー（計画の立案・事務能力・地権者や店主を説得できるコミュニケーション能力・行政や諸団体の中での立ち回り、意見の調整能力等を持ちえた人）です。しかし、そのような都合の良い人は中々見つかりませんので、これらの活動を通じ得られた仲間や建築士と共に取り組めればと思っています。

(記・同 中尾七隆)



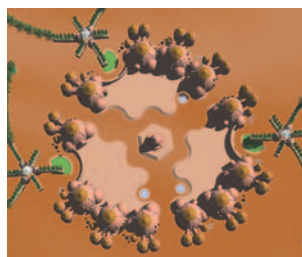
夢を容れる器

— 渡辺菊眞 建築家・高知工科大学准教授 —

「この建築には夢がない。未来が見えない」初めて施主からいただいた言葉である。2001年、インド西部大地震の復興プロジェクトで、私は復興モデル住居を設計施工した。設計にあたり、当地で典型的な住居の間取りを調査した。当地は日干しレンガで矩形の建築が一般的であったが、これが地震で壊滅。これではいけない。それもあり、耐震性があり、なおかつ一旦覚えれば誰にでも施工可能な土嚢ブロックによる建築を提案した。平面形状は矩形でなく円形。これも耐震性を考えてのことだ。現地の伝統形式を生真面目に踏襲し、それに耐震性を加味した計画。正直、よい建築だと思っていた。しかし、施主である村の酋長が発した言葉は冒頭のものだった。その後、当時勤務していた設計事務所の所長に指示され作成した花弁状の丸い村落全体計画（曼荼羅型の計画）を酋長に見せたところ、生硬で気難しい彼の顔がぱあーとほころび、見る見る生気が満ちてきた。「これこそ私が欲していたものだ。夢がある。生涯かけてこれに取り組む」。一枚の絵が彼の深層に訴え、夢を導いたのである。衝撃的な体験であった。この時から建築と夢のことを、考えるようになった。

時はたち2008年。設計事務所を開設してはじめての仕事は、東アフリカ・ウガンダにエコビレッジをつくるというものだった。インドの経験もあり、実現するか否かは度外視して、曼荼羅形状に住居配置した全体計画を提示した。ただし、今度は場所が違う。アフリカの彫刻や工芸作品を参照してアフリカ型曼荼羅として計画。この絵が施主（在日ウガンダ大使）の心を動かした。彼は自らの土地を無償で提供してくれ、建設がはじまった。いきなり村全体というのは無理なので、まずは住居1棟をモデルハウスとして建設。施工は近隣貧困漁村の高校生孤児と、その里親が担った。彼らは土嚢を積むのがとても上手。音楽にあわせて踊るように丸い壁をどんどん積上げていく。とはいえ、この建築、高さ9mあり、世界で最も高い土嚢建築であった。当然、難航する。しかも、いちばん難しい中央大ドームの施工に入る時に私は当地を去らねばならなかった。規模が規模なだけに場合によっては命を落としかねない。私が戻ってくる来年まで工事を延期してもよいと、里親チャールズに伝えたものの、彼は「まかせてくれ」という。ただ、「心の励みにしたいから、完成時の絵を描いてくれ」とのこと。現場板に絵を描き渡す。彼はとても喜び「来年、キクマが来たら地酒で一杯やろう」と誓い合った。その後連絡のつかない不安な一年を過ごし、再び当地へ。見事に完成していた。残した絵を大ドームの建具にはりつけ、懸命につくりあげたという。高校生の施工リーダー、モゼ君はその様子を身振り手振りで伝えてくれた。里親のチャールズ

ズはこの施工を終えた一週間後に他界。実は不治の病と闘いながらの施工だった。孤児たちの未来を想い、命がけで完成させたのだ。その後、モゼ君は別の村で土嚢ドームの技術を伝え、現在、自分の村に家を建てたと聞く。叶わなかったチャールズとの祝杯を、近い未来、モゼ君とかわしあいたいと思う。夢を共有することの強さが私の心に深く刻みこまれた。



東アフリカエコビレッジマスタープラン



エコビレッジモデルハウスの建設風景



孤児たちが完成させたモデルハウス全景

アフリカの経験から3年が過ぎた2012年。タイ国境の地で孤児院兼学校「虹の学校」の新学舎を計画することになった。この学校の理事は高知在住の若き住職さん。アフリカエコビレッジの新聞記事を見て感銘を受けたとのこと。それゆえの依頼であった。計画前に現地視察。当地では木造高床住居が伝統的。本来なら、その形式を踏襲したい。しかし、現在、森林の乱伐などが原因で木材伐採は厳しく制限されている。木造は無理なのだ。そこで、土嚢ドーム数棟を高基礎にして、その上に単管で架構した高床空間を乗せる形式を考案した。孤児たちは心に深い傷を負っている。母親と離れた痛みは包まれる場所を欲している。そこで土嚢ドームを単なる高基礎でなく彼らを優しく包みこむ場所とした。上部の高床空間は風の吹き抜ける場所。この

地の未来を担う建築形式を目指した。計画がまとまり、2012年の年末に建設にむかう。しかし、何故かいいようのない違和感に悩まされた。着工間近なのに。あらためて子供たちの様子をみってみた。整地でできた土山に潜ったり、山のてっぺんから空に思い切りジャンプする。ほとぼしる躍動が青い空に一瞬のシルエットを描く。いきなり、衝撃が走った。彼らはこの地を憶いながら、同時に果てなく広大な宇宙へ飛び立ちたいのだ。空を自由に駆け巡る、そんな場所が新学舎には必要なのだ。そこで三日後に迫った着工を前に必死に設計変更した。土嚢の高基礎にのる高床空間は舟のようなカタチに変貌した。同時に学舎名は「天翔る方舟」に決まった。この改案を校長先生に見せると大興奮。というのも、以前、子供たちに夢の校舎を描かせたところ、空飛ぶ舟を描いた孤児がおり、そんな校舎を夢見ていたとのことだった。子供たちの内なる強い願いに、私の無意識が揺さぶられたのだった。子供の夢に私が救われた、そんな想いがした。建設は私たちと、現地の山岳少数民族ガリアン族の大工さんが担った。大工さんは土嚢建築も単管も初体験。しかし、この新しい工法に強い興味を示し、現場は大いに盛りあがった。単管の架構にはガリアン伝統の竹床と竹壁があしらわれ、屋根も草葺き。大工さんは「キクマの新しい工法と、ガリアンの技がミックスされた共同作品だ!」と、この建設を誇りに思ってくれたようだ。孤児たちも泥漆喰づくりを協力してくれた。泥まみれでキャッキョって手伝ってくれた。現場はお祭りのよう。この後、高床のある2階から伸びる滑り台ができ、子供たちは大はしゃぎ。隙さえあれば滑り台に駆け込んでいく。学舎は8月半ばに完成。現在は教室とお祈りの場として日々使われている。敬虔な教徒である彼らにお祈りはとても大切。土嚢ドームの包まれた空間で祈りの声が響き渡る。校舎でカー杯、学び、遊び、祈ることで彼らの傷は癒えていく。

被災地であれ、貧困地であれ、それは何かが壊れてしまった世界である。壊れた世界では心はバラバラで不安に満ちている。夢は散らばった心をつなぎ合わせ、力強い全体にまとめあげていく。つながって一つになった心は光彩を放ち、その時、傷は癒えていく。建築とは、そんな夢を育む器なのだと思う。私たちの夢がカタチになり、私たちが包み、新しい夢を育む、そんな場所である。世界が壊れてしまっているのは何も被災地や貧困地だけではない。われわれの心も内なる悲鳴をあげているのではないか。そんな心をひとつにつなぎとめる夢の器が必要である。建築を通して夢に触れることで、いろいろな心と出会うことができた。またその夢は新たな夢へとつながっていく。現在、日

本で幾つかの夢の器づくりが始まっている。果てなく深化していく夢の器。そんな建築を創り続けたいと、願っている。



「天翔る方舟」の全景



2階高床空間にある「仏の間」でのお祈り風景



地の教室で絵を描く子供たち

「祈りの間」の内観



第56回建築士会全国大会「しまね大会」

第56回建築士会全国大会が、10/18(金)～10/20(日)の3日間で、島根県のくにびきメッセで行われました。



19日の大会では、オープニングに石見神楽をみることができました。石見神楽は、島根県西部の石見地方に古くから伝わる伝統芸能です。



須佐之男命(すさのおのみこと)が火を吹く沢山の蛇(おろち)を次々と倒していく姿は圧巻でした。



大会では、「姉齒事件」や「一級建築士なりすまし事件」による、建築士の社会的信頼の失墜が問題となっていることに触れられ、その信頼回復のため、写真付きカード型免許への切り替えの推進。建築士免許の更新制度などの実現にむけて国土交通省へ要望していると述べられました。

表彰式では、奈良県建築士会から、仁田晴夫さん、栗原照子さんの2人に連合会会長表彰が送られました。おめでとうございます！

20日(日)には、エクスカーションには参加せず、奈良県建築士会独自のコースで観光しました。

出雲以外の地方では、10月は「神無月」ですが、出雲では「神在月」といわれ、地方の神様が縁結びの会議をするため、出雲大社へ集結される月になります。そして、今年は60年に一度の遷宮の祭りのある年でもあり、今年を逃すと60年後になります。絶好機会ですので、出雲大社の観光時間をたくさんとり、ボランティアガイドさんもついていたので、ただ参拝するだけでは、知ることができない裏話を聞きながら出雲大社を参拝することができました。



古代神殿は巨木柱を3本束ねて1本の柱として、高層建築を実現していたことや、下から見てみると小さく見える、出雲大社本殿の屋根飾りの千木(ちぎ)は、長さが7、8mあること。千木に開けられた穴は奈良の大仏様の鼻の穴ぐらいあることに驚きました。



出雲で全国大会が開催されたこともあり、特別な年に出雲大社へ参拝することができ、感謝しています。

(記・檀原支部 佐藤智之)



平成25年度 連合会 会長表彰者 (全国大会しまね大会にて)

■郡山支部 仁田晴夫

まずは、私が連合会 会長表彰を受賞できた事、これは奈良県建築士会会員皆様の御支援、御協力の賜物と存じ御礼申し上げます。

さて、しまねには過去に勉強会で二度訪問しており、今度三度目です。「しまね大会」に到着した時間が開会式の開催時間に近く、展示ブース(大社神殿模型)、木造フォーラム、交流セッション①「木造の可能性、そして建築士会の未来を考えよう!」・③「木造フォーラム分科会 木造建築とBIM—その効果と可能性—」等の見学は出来ずに式場へと入場した。予定通り大会が終了し懇親会に移動となりフォーラム等の見学が出来なかったのは残念です。しかし、エクスカーションBコース世界遺産「石見銀山」と地場産業の石州瓦の工場見学共に大変印象に残りました。この工場見学が私にとって認識の違いに驚きました。関西地区で瓦の産地は淡路島と認識しますが、(株)セラミカ工場は日産二万枚(両袖瓦、軒先瓦、棟瓦等)の生産設備をもち、工場内に入ると作業員は少人数で、製品製造、検査、梱包に至るまでコンピューター管理され生産体制は機械化しており、工場長の説明には製品の完成歩留りは93%と聞き大変驚きました。世界遺産の石見銀山はテレビ等の紹介通りでボランティア



ガイドの案内によると銀山の隆盛がしのばれ深山の街並みが大変良い景色と心に残りました。

追記：(株)セラミカの工場を見学して、現在淡路島の瓦生産地も工場の機械化が進んでいるかを見てみたいと考えた。また、全国大会で地場産業の工場見学は初めてであった。

■生駒支部 栗原昭子

昭和62年から続けてきた、斑鳩町都市計画審議会委員は今年6月末に任期満了を迎えました。古希を過ぎ建築士会も退会を申し出ようと思い始めた頃に事務局から知らせを受けました。

私が建築士会に関わりだしたのは、平成10年に奈良で第41回全国大会が開催された10年程前からのことで、特に思い出深いのは「大和茶室探訪」です。日頃の業務の傍らで大変だったが、今になって思えば貴重な経験をさせてもらったと感じています。女性委員会活動のなかで、生涯お付き合いできる知己を得たことも嬉しいことです。

今後はこの受賞を励みに生涯現役を目指して行きたいものと考えます。最後になりましたが、当日お世話頂いた事務局、そして檀原支部の皆様にご心から感謝申し上げます。



中南和六支部 「親睦ゴルフ大会」レポート

毎年恒例の中南和六支部(檀原、高田、桜井、宇陀、五條、吉野)親善ゴルフ大会を、去る11月4日グランデージゴルフ倶楽部に於いて開催しました。7組28名の参加を頂き、パター練習場にて、東五條支部長の挨拶、全員での記念撮影の後、快調にスタートしました。

当日の天気は大雨時々雷との予報の中スタートしましたが、皆様の日頃の行いが良いのか、晴れ間が広がり暖かい状況でほとんど雨が降らず、快適にラウンドできました。

プレーを終えてから豪雨となったのも運の強い人達ばかりなのでしょうか? 又、懇親会では、各支部より活動報告及び情報交換等で盛り上がりなごやかな内に表彰式を行

い楽しい1日を過ごさせていただきました。

皆様、ご参加ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。(記・担当幹事 吉野支部 上平久居)





青年委員会

第56回建築士会全国大会「しまね大会」レポート

1. 概要

平成25年10月19日(土)、第56回建築士会全国大会「しまね大会」が開催されました。『神集う國 しまね すべてを引き寄せ、縁結ぶ～「ものづくり」の原点を見つめる～』をメインテーマに、全国各地より多数の建築士が集まりました。

青年委員会は19日の全国大会当日に先立ち、前日に日本建築士会連合会 青年委員会主催で開催された全国建築士フォーラムから総勢、16名にて参加いたしました。

大会を通して、全国の建築士会の方々と交流を持つことができたと共に、多様な活動をされている事に感銘を受けました。

本稿においては、一連の大会イベントの中で、青年委員会の関わりが深い事業を紹介したいと思います。

2. 第4回 全国建築士フォーラム in 島根

「あつまれ青年建築士!～つながる地域実践活動発表会～」

「あつまれ青年建築士!」においては、全国の建築士会青年委員による多様な活動の中から、全国7ブロックより選出された事例が紹介され、日ごろの活動成果の発表の場となり、各ブロックの活動を相互に確認・理解を深める事が出来ました。

その後、各活動の詳細について、発表者を中心としたワークショップ形式の質問や意見交換をする場が設けられていたため、さらなる相互の理解を深めることができました。その場においては、他の地域の建築士会の方とも議論をすることができると共に、自らの地域の活動と照らし合わせる事ができる研鑽の場となりました。

3. 第56回 建築士会全国大会「しまね大会」

「交流セッション①：木造の可能性、そして建築士会の未来を考えよう！」

「交流セッション①」は、第1部として、『建築士・建築士会のPRアイデアの発表・テーブルディスカッション』、第2部として、日本建築士会連合会 副会長 衛藤照夫氏による『木造最新技術情報講演会』が行われました。

PRアイデア発表では、近畿ブロック代表として、近畿での取り組みについての発表を我が奈良県建築士会青年委員(谷委員・武村委員)が行ってくれました。

我々の発表は「建築士を伝える ～市民の方々に対する建築士の認知度を高める～」をテーマとして①オリジナルPRグッズの製作(奈良県建築士会)、②お助け戦隊 ケンチック(兵庫県建築士会阪神支部青年部会)、③ピンバッチの普及活動(近畿建築士会協議会青年部会)の3つの具体的事例を発表いたしました。

的事例を発表いたしました。

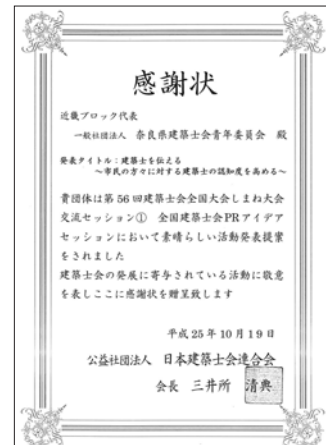
①のオリジナルPRグッズの製作については、奈良県建築士会の青年委員会にて、PRグッズのアイデアを募集し、いくつかのアイデアの中から、実際にマグネットバー(通称：マグバー)を製作しました。

マグバーとは、建築士のPR内容をレーザー彫りした木製の角材(215×30×10mm)にマグネットシートを貼り付けたもので、ホワイトボードなどに貼り付けておくことにより、恒久的に使用できるグッズで、非常に高評価を頂きました。

また、その後のテーブルディスカッションにおいても、本アイデアに対し、多数の意見を賜り、参加者の関心の深さを実感することができました。

4. 終わりに

本大会を通して、全国の建築士会において、それぞれの地域性・独自性を活かした活動をされている事を実感すると共に、直接的な講義・質疑・対談することにより、活動内容を身近に感じる事ができ、素晴らしい大会となりました。(記・青年委員会 向出篤史)



建築士を伝える

～ 市民の方々に対する建築士の認知度を高める～

建築士会をPRするためには、建築士を身近に感じてもらうことが重要です。
建築士を身近に感じてもらうための具体的な取り組みを紹介します。

その壹 オリジナルPRグッズの製作 by 奈良県建築士会青年委員会

○製作する上でのポイント

普段は建築士との関わりが無くても、ふとした時に建築士（及び建築士会）を思い出してもらえるようなオリジナルPRグッズを考案し、地域イベントにおいて市民の方々と交流しながら配布しています。

- 1) キャッチコピーは建築士との関わり方が明確に分かること
 - 現在、奈良県建築士会で行っている無料相談会の案内
 - 青年委員会が行う出前事業の案内
 - 7月1日が建築士の日であることのPR
 - ピンバッジの普及活動と同様、建築士会のマークを入れます
- 2) 捨てられず各家庭にて保管・利用されるものであること
オリジナルグッズ製作上のポイントは他に
 - できるだけハンドメイドで製作できるもの
 - なんとなく、遊び心のあるもの



バリエーション豊富なキャッチコピー



地域イベントで配布



県産間伐材を用いた「木製マグネットバー」



建築士会の「案内パンフレット」



「ペーパークラフトの建てる貯金箱」



「建築士カレンダー」



ロゴマークの入ったオリジナル「木のパズル」



地域のイベントに参加して建築士会をPR



PRグッズの製作風景

その参 ピンバッジの普及活動 by 近畿建築士会協議会青年部会

建築士会には建築士会ピンバッジが存在しますが、建築士会員の中でもその存在を知らない人も多いはず。そこで「建築士会員全員が普段から身につける」ことにより、「ピンバッジを付けている建築士さんは安心できる」と認識してもらえる印となることを目指して、ピンバッジの普及活動を行っています。

今回、紹介した活動を継続的に行うことにより、温かい家庭の中に、子供達の心の奥に、そして、誇らしげに活躍する建築士の襟元に、建築士を身近に感じてもらう機会を増やしていきます。

その貳 お助け戦隊「ケンチック」 by 兵庫県建築士会阪神支部青年部会

ケンチックは「建築のヒーロー」として、ものづくり活動を通じて建築に触れてもらい、子供たちに建築を知ってもらうきっかけの一つとして誕生しました。

ケンチックが建築士の仕事を伝えるとともに、のこぎりなど危険な道具の正しい使い方を「セイヤツ」と指導します。

ケンチックレド：
「日本中のチビッコ達に会いにいけ。大きな声で呼んでくれよ」



お助け戦隊ケンチック参上！



さあみんな準備いいか？ハイチーズ！



手元には気をつけるよ！



5人揃ってどこでもお手伝いに行け！

問題！ この中で、いつも建築を考え、建築のためのスキルアップを重ねている建築士さんは、どの人？



毎年7月1日は「建築士の日」各府県建築士会でイベントを開催しています。



建築士会ピンバッジ

建築士会は、建築士個々のスキルアップを行い、建築に関する皆さんの疑問・要望にお答えできる建築士が集まる団体です。建築士ピンバッジが建築士会員の誇りです。
※建築士会は、建築士法に基づく全国規模の法定団体です。

近畿建築士会協議会青年部会

公称社団法人 大阪府建築士会 一般社団法人 京都府建築士会 公称社団法人 兵庫県建築士会
公称社団法人 大分県建築士会 一般社団法人 奈良県建築士会 一般社団法人 和歌山県建築士会
公称社団法人 滋賀県建築士会 一般社団法人 徳島県建築士会 一般社団法人 香川県建築士会

ピンバッジ普及活動&「建築士の日」PRポスター

第56回建築士会全国大会「しまね大会」建築士会PRアイデアセッション

近畿建築士会協議会青年部会

全国大会にて発表したプレゼンテーションボード



青年委員会

建築模型講習会【初級編】 レポート

木々の葉が色づき始めた頃、奈良県建築士会 青年委員会主催の第1回建築模型講習会が行われました。3Dで表現出来る建築模型は、2Dに比べ空間をイメージしやすく、お施主様へのプレゼンテーションとしても有効な手段の一つです。今回は初級編としまして、道具の使い方や制作テクニックを学びながら、3日間に分け、1/50スケールの2階建木造住宅の完成を目指しました。「ずっと建築模型を作るのが夢だった。」「プレゼンテーションの幅を広げたい。」「将来、建築関係の仕事に就きたい。」さまざまな想いを胸に、高校生から60歳代まで幅広い世代の方々が、建築模型・ジオラマ模型を制作されている株式会社大和工藝の谷幸治さん、林洋平さんにご指導していただきながら、制作に取り組みました。

1日目(10月27日)。初めて模型制作をされる方も多かったので、まずは制作に必要な道具・材料の紹介と使い方をじっくり学びました。



そして予行練習として5cm角の立方体を制作しました。シンプルな形状ながら、これが意外と難しい。カッターの扱い方やスチレンボードの小口が見えないような工夫、組み立て方など、建築模型の基本を学ぶことが出来たと思います。それを踏まえ、いよいよメインの住宅模型の制作が始まりました。初日は床の切り出しを行いました。床厚も考えながら、厚さの異なるスチレンボードを重ねて仕上げていきます。

2日目(11月10日)は外壁の制作を行いました。立面図を参考にしながら外壁を切り出し、開口部を開け、1階と2階を分離させます。ベランダで隠れている開口部や、屋根で隠れている外壁に注意しないといけないので、なかなか頭の使う作業です。開口部は四方が囲われている為、カッター使いが難しそうでしたが、皆さん丁寧に切り抜かれていました。



3日目(11月24日)。完成目指してラストスパートです。寄棟造の屋根の制作を行いました。屋根伏図や立面図を参考にしながら、まずはそれぞれの面を切り出していきます。そしてスチレンボードの小口を斜めにカットし、山と谷に気をつけながら形を組んでいきます。小口を斜めにカットすることで貼り合わせたときに接着面が綺麗に見えます。細かい部分にも工夫が感じられました。



そして見事2階建木造住宅が完成しました。初めてとは思えない完成度の高さを感じました。何より受講生の皆様全員が完成出来たことに、スタッフ一同喜び一入です。初めての試みで手探り状態ではありましたが、実現出来て良かったなぁと思うばかりです。

最後になりますが本事業の講師を務めてくださいました谷さん、林さんを始め、ご関係者の方々に御礼申し上げます。

模型講習会は好評につき、第2弾も企画中ですので、ご期待ください。

(記・青年委員会 木本千香子)



青年委員会 大人の工場見学会 レポート

去る11月27日(水)に青年委員会主催の「大人の工場見学会」が開催されました。

天候にも恵まれ、朝からとても良い見学日和の中、天理駅を出発。今回は、伊賀市にあります「株式会社LIXIL（リクシル）上野緑工場」と東大阪市にあります「近畿車輛株式会社」を訪れました。

LIXIL上野緑工場では、ユニットバスのプレス成形・キレイ浴槽（塗装）・一貫ライン（鋼板パネル梱包・納品）の見学です。

用意して頂いたバスで移動するというほどの広大な敷地・設備でユニットバスは作られ、出荷されていきます。

シート又はブロック状の原料をプレス機にて圧縮成形して、出来上がった浴槽及び防水パンはロボットアームで穴あけバリ落とし等を正確に加工され、キレイ浴槽工程に移され、国産高級セダンのドアパネルと同等の平滑性のある高精度な塗装が施され、汚れが付きにくく落としやすい浴槽となります。

塗装環境の管理（気圧・ホコリ・静電気・室温・湿度）の徹底、また塗装・下地処理をロボットアームにより的確に行うことで塗料ダレの起きやすい曲面ばかりの浴槽を平滑に仕上げる事ができるそうです。お風呂掃除がラクになった背景には、開発段階における多大なご苦労があったそうです。

続いて、工場からバスで移動し、鋼板パネルの製造及び部品の組立梱包から搬出までを一貫して行く最新の工場へ。1Fでは鋼板を加工し、石膏ボードと貼り合わせる工程を見学。

やはり、こちらでも製造加工のほとんどはロボットによって行われますが、製品の検査は人の目によって行われています。

2Fでは細かい部品類、浴槽やパネルの梱包が行われています。これらの部品は別々の場所から運ばれてきますが、全てQRコードにより管理されており、発注から納品まで正確に管理され、最終的にパレットにひとまとめになるようになっていました。

梱包を終えた製品は併設された巨大な倉庫で保管され、午前中に作られた物は当日中に出荷される無駄の少ない製造ラインに驚きました。

皆さん、楽しみにされていた森辻亭での伊賀牛焼肉ランチを頂きながらの歓談もあっという間に終わり、バスは名阪国道を

西へ向かいます。途中、西名阪の集中工事による渋滞が懸念されましたが、無事に予定通り近畿車輛へ到着。一通りの説明を受けた後、工場内の見学です。

こちらの工場は普段、滅多に見学できないので、鉄道好きとしては非常に楽しみにしていました。非電化区間向けの「自己充電型バッテリー式電車（ハイブリッドディーゼル車）」の試験車両や「通勤車両（521系）」、鋼鉄製の部品の数々が所狭しと並べられている状況を見るだけでも興奮している参加メンバーの目の前に現れたのは、「北陸新幹線（E(W)7系）」の先頭車両部分でした。板金・溶接作業中、しかも素材であるアルミの状態で居座っており、あまりの迫力に一同大興奮でした。

新幹線は日本人の誇りですからね。

別のラインでは、先月末に増車が決定した近鉄特急「しまかぜ」の製造準備がされていました。台車部分は鉄製ですが、車体材料として並んでいた物はアルミやステンレスが目立ちました。軽量化はもちろん、素材をそのまま利用でき塗装の必要がないという面においてもコストダウンだけでなく環境への配慮も感じられました。

僕自身、施工管理を専門とする身からしても車体・台車（躯体）、内装・塗装（仕上げ）、設備等の工程、設計におけるバリエーションの観念、効率的な作業所における安全管理や品質管理、原価管理についても見習うべき部分が多数あり非常に勉強になりました。どちらも撮影不可なのが残念でした。

私にとっては、初めての見学会への参加でしたが、LIXILは機械化における正確で円滑な製造、それに対して近畿車輛は職人によるマンパワーが感じ取られ、ものづくりにおいてそれぞれの特徴があり、かつ共通する部分もありこれからの建築技術者としても役立てていける良い経験ができたと思います。

今後も青年委員会では、より多くの方楽しんでいただけるよう事業を企画していく予定ですので、皆様の積極的なご参加よろしくお願ひします。

最後になりましたが、本見学会に協力いただきました株式会社LIXIL様、株式会社大松様、近畿車輛株式会社様に厚く御礼申し上げます。

（記・郡山支部 東川正樹）





榎原支部

鉄鋼部材の工場見学 レポート

『じぇじぇじぇ!』と、私が北海の海女さんなら、何度もこう言ったのでしょうか。今回の見学会は驚きの連続でした。

11月22日(金)、榎原支部教育事業委員会・青年委員会と、奈良県鉄構組合 青年部会との共催による『鉄構関係部材の工場見学会』に参加しました。



最初に訪れましたユニタイト(株)本社には、通勤ラッシュと重なったため、予定時刻に少し遅れての到着でしたが、スタッフ様から盛大な歓迎と、『お・も・て・な・し』ならぬ『ユ・ニ・タ・イ・ト』と2013年ならではの熱いPRを受け、ハイテンションボルトの製造工程、検査工程へ案内頂きました。

工場内の完成品、不適合品、道具、設備等、全てが整理整頓されていることに、脱帽でした(ちなみにお土産としてユニタイトロゴの入った帽子を頂きました)。

また、商品の製造から梱包までオートメーション化され、大量の製品が次々に仕上がっている一方、スタッフが機械操作、検査、検品等、各工程を手際よく、無駄なく進めていることに、機械と人間の役割分担の重要性を感じました。

次に訪問したJFE建材(株)神戸工場では、主にガードレール、鉄骨造の床に用いられるデッキプレート、河川の災害を防ぐ「えん堤」などの製造工程を見学しました。

ロボットによる溶接工程を見せて頂いたのですが、均一で美しい仕上がりにため息が出ました。昨年に榎原支部の溶接体験に参加したのですが、その時の私自身の残念な仕上がりを知っているからなおさらです。

効率的に配置された製造ラインにおいて、安全を促す掲示が多い事も印象的でした。安全管理にも十分に配慮されている点は、自らに置き換えて実践できるのではないかと、参考になりました。

3番目に訪問した田中亜鉛鍍金(株)堺工場では、溶融亜鉛鍍金(メッキ)工程を見せて頂きました。

巨大なメッキ釜(W2000×H3600×L16000)及び、酸・アルカリ・水等が入った各釜がずらっと並んでいる姿は、それだけで迫力があります。

鉄の弱点である錆を防ぐために、吊りあげられた鋼材が、泡を吹き、時には煙を上げながら、たくましい職人さんの手によって、美しいメッキ色に仕上がっていく工程を、全員が興奮しながら見ていたのが印象的です。

弊社で扱う物件は木造建築が多いのですが、金属部品やガードレール、メッキ加工には、直接・間接的に世話になりっぱなしです。

商品の寸法が正確であること、強度等の品質がカタログの表記通りであること、を実現することがいかに難しいことなのかを改めて認識することができました。

また、材料、完成品、道具類が見事に整理整頓された各工場設備は非常に参考になり、刺激を受けました(工場の様子は写真撮影が出来ず残念でしたが、記憶に焼き付いています)。

この経験は、自らの職場にも活かさなければいけません。まさに『いつやるの?今でしょ!』の覚悟です。

今回は、金曜日の見学会でしたので、通常業務に穴をあけてしまいました。しかし収穫は多く、空けた仕事の穴は今後、『倍返し』で取り戻せると思います。

最後に、今回の見学会を企画・開催頂いた鉄構組合の皆様、士会会員の皆様、見学させて頂きました企業様、本当に有難うございました。

(記・榎原支部 岡田博和)



開催日時 平成25年11月21日(木) 午後2時より
開催場所 旭化成建材(株)建材GALLERY大阪、
グランフロント大阪
参加者 13名 (CPD: 4単位)

旭化成建材(株)のご協力により、会議室にて最新の建材の紹介をして頂きました。



建材としては、熱に強く燃えにくい断熱材(ネオマフォーム)、耐久性の高い外装材(パワーボード)、品質と美を兼ねそなえた高性能塗料(アートミュール)、また、構造に関連するものとして高支持力・高引き抜き性能を持つ鋼管杭(EAZET/ATTコラム)、柱・梁接合部材(ファブラックスDS)、梁貫通孔補強材(フリードーナツ)について非常にわかりやすい説明を受け最新の情報収集ができました。



ショールームにて、実際の建材を見させて頂くことができました。



グランフロント大阪にて(株)日建設計の見杉亮誠様より、今年の4月に開業したグランフロント大阪の設計時のエピソード等を聞かせて頂きました。中でも避難規定により建物の四隅が隅切りの形状になってしまうことを逆にとり、この部分にコーナーボイドを設けることにより、自然換気が行える重力換気システムを採用した話など非常に興味深い話を聞くことができました。



オフィスフロアにて、実物のコーナーボイドを見たり、高層階からの景色を眺めたりしながらオフィスの広さや快適さを実感しました。さらに屋上のヘリポートにも特別に上がらせて頂くことができました。

また、ナレッジキャピタルという「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を創出する複合施設を見学させて頂きました。この施設は、一般生活者から世界一の技術を持つ人や会社まで多様な人々の交わりにより今までにない商品、サービスや人材などを生み出すことを目的としています。見学の際も多くの方がナレッジサロンと呼ばれる場所で意見交換が行われていました。

見学会終了後、グランフロント大阪の地下にある「世界のビール博物館」にて懇親会を行い、勉強会を終了しました。(記・高田支部 植田康夫)



奈良支部

韓国慶州姉妹都市訪問・世界遺産見学 レポート

奈良市と慶州市が姉妹都市の関係で、長年、建築士会奈良支部と慶州市建築士会が、一年ごとに相互訪問し友好関係を深めています。今年度は、奈良県建築士会奈良支部が慶州市に訪問する年であり、11月15日～17日において、韓国慶州姉妹都市訪問・世界遺産見学ツアーが開催されました。古都・歴史文化都市の建築士会として友好関係を深め、都市、建築状況などの情報交換、協力関係を構築することを目的として行われました。11月15日（金）慶州市庁訪問、その後懇親会、11月16日（土）慶州市建築士会の案内で慶州市歴史的・伝統的建築物の見学、11月17日（日）慶州市を出て釜山市内見学という日程で行われました。事前準備は奈良市観光課の協力を得て連絡を取り合い、市長親書や慶州市長・慶州建築士会長用の記念品・建築士会員用の記念品の準備等、過去11年間交流を深めてきた先輩方の指導の元、万全の態勢で臨みました。全体的な旅の準備は奈良交通様にお願いして、6万円の参加費+わずかな補助でより多くの方に参加していただけるように配慮しツアーを組んでいただきました。結果、若井支部長はじめ14人の参加で前回と同じ規模の訪問団を組むことができました。

15日関西国際空港を10:40分に出発し、12:00に釜山・金海国際空港に到着し、慶州建築士会の横断幕による歓迎を受けました。慶州建築士会に準備していただいた専属の通訳ガイドと奈良交通で準備していただいた通訳ガイドに同行していただき専用バスで、慶州市役所に到着しました。交流セレモニーは、慶州市の方の通訳により応接室で行われ、握手、記念品交換、慶州市全景や歴史の説明など市長自ら積極的に進めていただきました。私が記念品を準備しましたので、慶州市からの記念品がその場で披露されたときに、我々の記念品が見劣りしないか心配でしたが問題なくスムーズに交換は終わりました。慶州市からはその他に、参加者に慶州市の日本語訳付きのパンフレット、天馬の絵柄の手ぬぐい等が送られました。その後、古い橋梁を復元した史跡の見学を慶州市の文化財課の方の説明で行われ、美しいライトアップを楽しむことができました。橋梁を渡ると懇親会場につく演出で、懇親会に招かれました。懇親会は慶州建築士会の事務局長の司会で始まり、韓国の仕来り度乾杯を何度も行うことに驚かされました。先輩からは、前回の懇親会は通訳が少なかったため、言葉数の少ない懇親会だったと聞き、心の準備をしていましたが、今回は慶州建築士会の計らいで、学生の方の通訳を2名準備していただいて合計4名の通訳を交えての懇親会となり4グループで会話の弾む懇親会となりました。懇親会の間にも記念品の交換があり我々の記念品が見劣りしないか心配でしたが無事に終わりました。懇親会の後は、慶州東宮と月池の夜景の見学会が行われましたが美しい夜景とうらはらに気温が下がって忍耐力のいる見学会となりました。ホテルに戻り、ロビーに集合して2次会は、慶州市街で日本と韓国のカラオケ大会で盛り上がりました。

16日は、慶州バードセンターと植物園で鳥の生態や植物を観察しました。ガラス張りのダイナミックな建物で、設計を慶州建築士会の会長が行っており、その後の昼食では苦労話や、設計チームの体制など詳細に質問することができました。午後からは、ヤンドン村と仏国寺を見学しました。ヤンドン村は、朝鮮の儒教文化が今もそのまま息づく村でこの村研究する先生の直接の講義を受けながら見学を行いました。あまりにも熱心に村全体を歩いての先生自らの講義となったため、脱落者が続出し14名のうち最終講義まで聴けたのは8名程度でした。私は最後まで残りましたが、その後の分国寺は、足を棒にしている見学となりました。仏国寺では、日本と同じように大掛かりな素屋根

を解体修理が行われており、素屋根設計の経験のある私は、建物よりも素屋根を興味深く見せていただきました。夕食は焼き肉を堪能させていただき、2日目も慶州建築士会の計らいで、2次会、3次会、4次会と歌やお酒、韓国慶州地元の食材を楽しませていただきました。移動の途中市街地を観察すると、車は韓国国内4メーカーのヨーロッパ風の優れたデザインの車に魅了されましたが、意外に違法駐車等は多く見受けられ、日本の20年前のような交通事情の印象を受けました。

17日は、8時にホテルロビーに集合し、慶州建築士会の方の見送りでホテルを後にしました。慶州建築士会の方にいつまでも手を振っていただいた姿が印象的でした。朝一見学した、釜山シネマセンターは、コープ・ヒンメルブラウ設計で「建築エレメントとしての屋根」に挑戦した建物で85mものキャンティレバーの部分があり驚嘆しました。次に甘川洞文化村の見学では、村おこしのパブリックアートの成功事例をその観光客の多さから体感しました。昼食は石やきピビンバの早食いで、ガイドさんの想定どおり釜山市内は観光や休日の混雑で渋滞に巻き込まれ見学場所をショートカットして足早で空港に向かうこととなり、16時10分の飛行機に無事に間に合い関西国際空港にたどり着くことができました。見学の3日間は、慶州市をはじめ慶州建築士会の会員特に役員の方々が通訳の方も含め5名～10名も仕事や休日返上で付き添っていただき、もてなしの心が伝わってきました。韓国慶州姉妹都市訪問・世界遺産見学では、11年以上の交流を通して、国境・文化・言葉・歴史を超えての建築士としての絆の深さを感じることができました。



慶州市庁舎電光掲示板前での記念写真



慶州市長と奈良支部訪問団の記念写真



古代の橋梁を復元した史跡の夜景



ヤンドン村を研究されている先生自らの現場での講義



ヤンドン村の景観

(記・奈良支部 中元綱一)



お知らせ

Information

●平成26年度 一級・二級・木造建築士定期講習についての お知らせ

平成26年度は主催が奈良県建築士会に変わります。平成26年度の定期講習につきましては、(一社)奈良県建築士会が受付を行います。

※詳しくは(T E L)0742-30-3111までお問い合わせ下さい。

	開催日時	開催場所
第1期	6月25日(水)	奈良県産業会館(大和高田市)
第2期	8月27日(水)	春日野荘(吉野の間)
第3期	11月19日(水)	奈良県産業会館(大和高田市)
第4期	平成27年2月頃	未定

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

(更新及び新規登録)

CPD=3単位

開催日時 平成26年1月23日(木)

13:00~16:30 (受付12:30~)

会場 奈良県文化会館 小ホール

定員 150名

申込期日 平成26年1月10日(金)まで

※平成25年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会はこの開催のみですご注意ください。

※詳細・申込は、チラシ(12月同封済)の用紙をご覧ください。

※会場へはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

●既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会【限界耐力計算】 のご案内

CPD=6単位

(奈良県における木造住宅の限界耐力計算による伝統構法耐震診断技術者養成のための講習会)

木造軸組構法の新しい耐震設計法は壁量規定に抛らずとも、建築基準法に適合した限界耐力計算による耐震性能評価が適用可能となりました。このことにつきまして今年度も別紙チラシのとおり奈良県のご後援のもと講習会を開催いたしますので多数ご参加ください。

開催日時 平成26年2月15日(土) 受付9:00~16:00

会場 奈良県建築士会館 1階会議室

(奈良市大宮町2-5-7)

定員 40名(先着順)

受講料 会員 4,000円・会員外 6,000円

※お問い合わせは建築士会 事務局まで

(T E L : 0742-30-3111)

●平成25年度名刺交換会のご案内

当士会では、新年を迎えるにあたり、会員が一堂に会し一年の抱負を語りあうことを目的とした恒例の新年名刺交換会を開催致します。是非ご参加ください。

1 開催日時 平成26年1月10日(金)

17:00~19:00 (受付16:30より)

2 開催場所 奈良ホテル「大和の間」(奈良市高畑町1096)

3 参加費 10,000円(当日受付にて)

※申し込みは、12月20日(金)で締め切らせていただきました。

●建築物の天井脱落防止対策講習会のご案内

CPD=3単位

国土交通省では、天井の脱落対策に係る基準を定め、新築建築物等への適合を義務づけとした建築基準法施行令及び関連省令を改正(平成25年8月5日公布)し、平成26年4月1日に施行されます。同省作成の「建築物の天井脱落対策に係る技術基準解説書」の内容等に関して、別紙チラシのとおり(一財)なら建築住宅センターのご後援のもと講習会を開催いたしますので多数ご参加ください。

開催日時 平成26年3月5日(水)

13:00~16:45 (受付12:30~)

会場 奈良県建築士会館 1階会議室

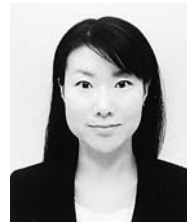
(奈良市大宮町2-5-7)

定員 40名(先着順)

問合せ先 (一社)奈良県建築士会 事務局まで

(T E L : 0742-30-3111)

ご挨拶



平成25年12月より一般社団法人奈良県建築士会事務局に勤務させていただくことになりました。

皆様のお役に立てるよう精一杯努力したいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

(徳山麻希)

●訃報

会員新田八朗氏(吉野支部)が去る11月5日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

会員宮崎眞友美様(天理支部)が去る12月7日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏名	支部	〒	住所(自宅)	勤務先
岩本 経 幸	橿原	634-0032	橿原市田中町34	岩本一級建築士事務所

平成25年度賛助会員

士会の各活動は次の方の賛助を得て行われています。

会社名	代表者	住所	T E L
(株)ウッドピタ 大阪支店	櫻井 等	大阪市中央区島町2-1-10 ヤハギ天満橋ビル6F	06-6966-0875

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

前回の後記の原稿も1月号を担当しました、1年経つのは早いものです。

情報・広報委員会に入り4年目になりました。1年目は、土會奈良がどの様に、編集されるかと思ひ8回位出席させてもらいました、大変な作業だなと思ひ、2年目はほとんど出席出来なく申し訳なく思ひ3年目に、初めて6月号の後記の原稿の担当になり、何を書けば良いか色々考え無事終了、4年目に入り残すところ後3か月になりました。

ここで土會奈良がどの様にして作成されるか説明したいと思ひます。

今年から発行が奇数月になり、

奇数月には次号のページ割り振り案、原稿依頼、行事、各支部の報告を探し担当者を決め、副会長、委員長、支部担当者が原稿の依頼に行きます。(青年委員会、女性委員会の皆様には、大変協力いただき有難うございます) 偶数月は、ページの割り振り、原稿のチェックし、中頃に印刷となります。原稿を書いてくださる人達は、断りもなく文章を素早く書けるには、驚きと感謝です。又副会長、委員長には、毎月出席し各作業に携わりご苦労かけますが、よろしくお願い致します。

これからも土會奈良の発行に、頑張っていきたいと思ひます。皆様の協力をお願いします。

(記・五條支部 辻 元二)

土會奈良

通巻593号
平成26年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 福本良平
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

Calendar

2014年1月

- 1(水) ● 元旦
- 6(月) 仕事はじめ
- 10(金) 新年名刺交換会(奈良ホテル)
- 13(月) ● 成人の日
- 18(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
近畿建築士会協議会青年部会定例会議(和歌山会議)
- 22(水) なら・すまいアップセンター住宅無料相談室
- 23(木) 奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会(奈良県文化会館)
- 26(日) 建築士試験合格祝賀会(東大寺・奈良ホテル)(青年委員会)

Calendar

2014年2月

- 1(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 8(土) 第21回近畿あーきてくと2014・地域実践活動発表会
- 11(火) ● 建国記念の日
お菓子の家作り(青年委員会)
- 12(水) 珠光茶会(~16日)
- 15(土) 既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会(奈良県建築士会館)(教育・事業委員会)
- 22(土) 奈良の森と木と家のフェスタ(~23日)(青年委員会)

(一財)なら建築住宅センターからお知らせ

建築基準法施行令の一部を改正する政令について(平成26年4月施行)

『建築物の天井脱落対策及びエレベーター等の脱落防止対策等に係る建築基準法施行令の一部を改正する政令』(平成25年政令第217号)並びに『建築基準法施行規則及び建築基準法に基づく指定資格検定機関等に関する省令の一部を改正する省令』(平成25年国土交通省令第61号)が平成25年7月12日に公布され、『建築物の天井脱落対策関連告示』が平成25年8月5日に公布されました。また、エレベーター等の脱落防止対策関連告示が平成25年10月29日に公布されました。詳細につきましては、国土交通省のホームページ(<http://www.mlit.go.jp/>)

jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_fr_000053.html)をご覧ください。

また、建築物の天井脱落対策については、「建築物における天井脱落対策に係る技術基準の解説」(10月改訂版)が、(一財)建築性能基準推進協会のホームページ(<http://www.seinokyo.jp/tenjou/top/>)に、公開されていますのでそちらをご覧ください。

詳しくは、

一般財団法人なら建築住宅センター 審査課まで

TEL: 0742-27-8601 / FAX: 0742-27-8602